

審議会現地調査箇所において出された意見等

○ 平成 29 年 6 月 12 日 現地調査

箇所(所在地)	(株) フラワー・スピリット (松本市和田)
特徴的な取組	大輪系の品種を活用した高品質花きの生産・出荷
意見等	<p>○人口減少で需要が減るなかで、いかに世界に通用するブランドを確立し、市場に求められるものの生産や、輸出の拡大をするかが重要。</p> <p>○土地の気候、寒暖差などの強みを活かし、大輪系の県内育成品種等の栽培・選別を徹底し、品質の高位標準化とその維持に取り組んでいる。</p> <p>○オランダ「フロリアード 2012」の品種コンテストでは、ランンキュラス、トルコギキョウがともに「最高賞」を受賞。</p> <p>○新規就農者の研修受入を積極的に行っており、就農後も支援を継続するなど、担い手の育成にも力を入れている。</p>

箇所(所在地)	あづみ農業協同組合
特徴的な取組	3 億円を目指した夏秋いちごづくり
意見等	<p>○H19 に夏秋いちご部会を設置し、H28 には生産者数 37 戸、栽培面積 4.3ha、販売額は約 2 億 5,480 億円に増加し、J A の重要品目として位置づけ。</p> <p>○生産量の約 6 割を業務用に直接販売し、安定的な契約取引を実施。</p> <p>○毎年、5 名程度の新規栽培希望者がおり、J A 子会社、普及センター、J A あづみが協力し、研修用ハウスでの実践研修、講座等を開催。</p> <p>○新規就農者からは研修後に農地を見つけるまでに苦労したとの意見が聞かれた。</p>

○ 平成 29 年 7 月 12 日 現地調査

箇所(所在地)	(株)ベジーツ (北佐久郡御代田町)
特徴的な取組	若手経営者の法人経営による人材育成・所得向上(野菜栽培)
意見等	<p>○生産原価を低減し、付加価値をつけることで収益を上げ、それを従業員に還元することを心掛けている。</p> <p>○新規学卒者から「農業だから」ということで選ばれるのではなく、他業種も含めた会社・法人の中から選ばれるような会社としたい。</p> <p>○これからは、農作業(プレイヤー)だけではなく、経営(マネジメント)ができる人材を育成する必要がある。</p>

箇所(所在地)	県営畑地帯総合土地改良事業 柵津御堂地区 (東御市柵津御堂)
特徴的な取組	ワイン用ぶどう生産団地の造成
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ○荒廃農地となっていた旧桑園をワイン用ぶどう団地に造成。 ○農地の集積は、農地中間管理事業を活用。 ○新規就農者も農地を借りる予定であり、地域の人口増加と活性化に寄与することを期待。 ○市では、ぶどう苗木やトレリスの整備への支援や、新規就農者の住宅確保など、一体的な支援を行っている。

箇所(所在地)	上田市丸子農産物直売加工センター「あさつゆ」(上田市丸子)
特徴的な取組	直売所を中心とした農村コミュニティへの維持
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ○生産者には、価格、規格、持ち込む量の「3つの自由」を保証している。 ○直売所間の連携に取り組んでおり、今後も強化していきたいが、物流については今後の課題である。 ○農家、JA、市、県(農業改良普及センター)の4者一体となった取組が重要。 ○専業農家、規模拡大を志向する農家にも魅力がある直売所とし、地域の農業生産のプラットフォームとしていきたい。 ○生産者の後継者育成にも取り組む必要がある。高齢化により遊休農地が増加した場合にどのように対応するかが課題。

箇所(所在地)	風土Link(株)(東御市八重原)
特徴的な取組	若手農業者による米輸出等新たな需要創出の取組(水稻栽培)
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ○減反をクリアするため新規需要米として輸出に取り組んでいる。 ○シンガポール等では日本の産地間競争が発生している状況。一方で需要はあるが供給が追いついていない。 ○米だけではなく、味噌なども含め「長寿の県」というストーリーで、「文化(風土)」提供してもらいたい。山形県等の上に行く取組が必要である。

箇所(所在地)	(有)ブラウンエッグファーム(佐久市浅科)
特徴的な取組	養鶏業を基軸とした6次産業化の推進
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ○従来の養鶏(採卵鶏)経営で規模拡大を図ってきたが、一定以上の規模で鶏の管理に限界を感じ、売上げを確保するため、直売所開設に取り組んだ。 ○国の助成事業等も利用したが、多くは金融機関からの融資を活用。融資してくれる金融機関がなかなか無く苦労した。 ○融資など6次産業化に取り組みやすい環境の整備を。

○ 平成 29 年 7 月 18 日 現地調査

箇所(所在地)	(有)信州つつじヶ丘牧場 (伊那市ますみヶ丘)
特徴的な取組	国の補助事業を活用した効率的な施設整備による生産規模拡大(酪農経営)
意見等	○補助事業を活用し、新たな畜舎や搾乳システムを導入することで、規模拡大を図ることができた。 ○余裕ができた労働力を飼料生産に回すことができ、生産コストの削減につながる。

箇所(所在地)	はびろ農業公園「みはらしファーム」(伊那市)
特徴的な取組	都市住民との交流促進による地域活性化
意見等	○そば打ちやおやき作りなどが体験できる施設を整備し、都市からの来訪者増加につなげることを目指している。 ○都市との交流人口の増加を図るには、観光業との連携が重要。

箇所(所在地)	(農)北の原 (駒ヶ根市赤穂)
特徴的な取組	水田農業から複合化を図る集落営農組織
意見等	○昭和 54 年に集落営農組織として発足し、消費税への対応のために法人化した。 ○水田の転作としてネギ栽培に取り組んでいる。 ○農地の宅地化への転用により農地が分散することを防ぐため、転用する農地の調整等の対応を行っている。 ○構成員が代替わりしていく中で、共同作業に参加してもらうための意識を高める必要。 ○担い手として若い専従役員にも入ってもらっている。若手に入ってもらうには、冬期の作業確保が必要であり、その対策として今年からイチゴ栽培に取り組んでいる。

箇所(所在地)	伊那市春富土地改良区 (伊那市富県)
特徴的な取組	農業用水を活用した水力発電による、農業用施設維持管理費の軽減
意見等	○築造から 40 年余が経過した水路等の更新・整備事業に合わせ、農業用水を活用した小水力発電施設を整備。 ○発電された電力は、土地改良区が管理する用水施設の電力として使用するとともに、余剰電力を売電することで売電益の一部を農業用施設の維持管理費に活用する。 ○今後、土地改良区の体質強化をしていく必要がある。